



子どもたち一人一人が笑顔ですごす学校をめざして



学力について

3学期は、1年間をまとめる学期です。学習についても、各学年で学んだことをふり返り、しっかりと力をつけていくことが大切です。

学力には、基礎学力(いろいろな学習のもとになるもの)と応用力(考えたり判断したりするもの)があるとされています。

基礎的な学力

昔から、「よみ」「かき」「そろばん(計算)」と言われるものです。漢字や文、文章を読んだり書いたりする力は、全てのもとになります。例えば漢字はものの形を正確にとらえたり書いたりする力を養います。

- ① 小さな子をはじめにできるようになる事はぐるぐると丸を書くことです。
- ② それから、ギザギザ線や□、△などの角を書くことができるようになります。
- ③ 低学年の子は斜めの線を書くことが難しいことがあります。(例えば「走」という字の最後の画が斜めにならなかつたり、「角」という字の上の部分まっすぐになつたり、反対に最後の画が左側につられて斜めになつたりします。

走 ← 角 ← 親 奮

また、「親」という字が正しく書けるようになるには「立」が左の上、「木」がその下(しかも最後の画が短い)、「見」を右側に大きく書く、ということができなければなりません。「奮」のように高学年が習う画数の多い字は、認識力が十分についていない低学年の子には、線がごちゃごちゃ入り組んでいるようにしかとらえられないでしょう。このように漢字を正しく書くことで、形を正しくとらえる力(認識力)や形を組み立てる力(合成や分解の力)が養われるといわれています。このような力は、子ども達が考えたり正しく判断したりするもとになる力です。基礎的な学力は繰り返し練習することで身に付きます。

応用力・考える力

基礎的な学力をもとにして、筋道を立てたり、創造的に考えたりする力です。

例えば作文などで自分の考えを書いたり、算数の文章問題を解いたりする力がこれにあたります。これは、基礎的な学力に比べると身に付くのに時間がかかりますが、似たような問題をしたり、文章を書いたり読書をしたり、話し合ったりする中で養われていきます。



☆それではここで筋道を立てて考える問題を一つ出します。

Aさん・Bさん・Cさんの3人がお金を出し合って、1枚の音楽CDを買うことにしました。お店屋さんでみるとCDの値段は3000円でした。それで、一人1000円ずつ出し合いました。ところが、3人とも用事があって買いに行けなかったため、Dさんに3000円渡して買ってもらうようにしました。

Dさんがお店屋さんに行ってみると3000円だったCDが2500円に値下げしていました。それでDさんは3000円出して500円のお釣りをもらいました。次の日、Dさんは3人に会ってCDを渡しました。そして500円余ったので3人に100円ずつ渡し、200円は自分の手数料としてもらいました。

Aさん・Bさん・Cさんは1000円出して100円戻してもらったので900円出したこととなります。3人合わせると900×3=2700(円)です。それにDさんがもらった手数料の200円を合わせると・・・あれ???2900円です。100円はどこにいったのでしょうか??(回答は次号で)

委員会活動

☆運営委員会

運営委員会の仕事は各委員会の委員長や4年生以上の各学級代表で開く「代表委員会」を計画・実施することです。例えば運動会の前代表委員会では「運動会のスローガン」を各学級で話し合ってもらい、代表委員会で決定します。3学期は、「6年生を送る会」の入退場の音楽やみんなで歌う歌を決めるなどします。先日も運営委員会のメンバーが各クラスをまわって説明に行きました。学校全体のためにがんばっています。

